

飯能西中だより



# 天覧山

1月号

飯能市立飯能西中学校  
学校だより  
令和5年度 第10号  
令和6年1月10日発行

<校訓> 誠・和・進

<学校教育目標>

自立・共生

<目指す学校像> 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

一人ひとりが大切にされていることが実感でき家に帰った時に元気よくただいまと言える学校でありたい  
飯能西中学校スクールアイデンティティー

## 年始にあたり思うこと

校長 中村 公一

今年は暖かい日差しにも恵まれて比較的過ごしやすい年末年始を迎えることになりました。コロナ禍を乗り越えて数年ぶりとなる行動制限が無いお正月だったため、各地で初詣をはじめとした様々な催し物に参加する人や、久しぶりの帰省や海外旅行を楽しむ家庭も多かったようです。このように明るい兆しが見え始める中で年始を迎えた私たちの心を大きく揺るがしたのは、他でもない元日の夕刻に北陸地方で発生した能登半島地震です。この地震で不幸にも命を落とされた方々のご冥福と、大切なご家族を亡くされたり、大きな被害を受けて絶望の淵にある多くの方々に心からお悔やみを申し上げたいと思います。家族そろって新年を祝うはずだったお正月の三が日がまさかこのようになることにならうとは、誰にも想像がつかなかつたことだと思います。こういった自然災害が起きるたびに痛切に感じることなのですが、失われた命や過ぎ去った時間は取り戻すことが出来ません。だからこそ今ある命と今この瞬間を大切にすることにしなければいけないのだと思います。今なお安否のわからない方がいらっしゃるようですし、交通が遮断されて支援が届かないところもあるようです。一日でも早く皆さん的心や体の苦しみが和らぐ日が来ることを祈らずにはいられません。

街頭では義援金を募る活動を見かけますし、支援物資を送ったり現地ボランティアの可能性を探る動きも始まったようです。私たちにできることはこういった活動に賛同して協力するということだけではないと思います。今まさに地震による困難に陥っている人を助けるという行為が、やがてはみんなが生きていてよかつたと思えるようなよりよい社会を目指すことに繋がっているのだと広く捉えて考えるとすれば、寄付やボランティアなどで直接的に関わる余裕がない中学生にとっても、上に述べたような日々の時間や命を大切にしていくといったことを通じてよりよい社会をつくることに貢献していくことが可能だからです。年の初めから忌まわしい災難に見舞われてしまい、被害に遭われた方にはどのような言葉も慰めにはならないかもしれません、これをきっかけとして、今ある命と時間を大切にしながら互いに助け合うことを忘れない一年間にしていきたいものです。

年が改まったとはいえ世界に目を向けて見ると未だウクライナでの戦争やイスラエルとパレスチナの衝突は収まる気配はありません。よく言われることですが、戦争を終わりにすることは戦争を始めるよりも何倍も難しいといいます。世界情勢が落ち着かなければ国際流通の影響を受けやすい我が国の経済の見通しは不透明なままであります。昨年から社会で話題となっている金融緩和と円安の影響や今年の実質賃金がどれだけ上昇するかは、学校でも給食費や制服などの値上げの問題に直結しており、今年は学校徴収金をはじめとした様々な経費を見直す正念場となりそうです。

さて、このような中、本校の生徒達はコロナ禍を乗り越えて元気に頑張ってくれています。本校に着任してからまもなく3年になりますが、これまで本校の生徒について感じてきたのは、素直で優しい生徒が多いということです。教員の働きかけにも純粋に反応してくれます。校長としてこれまで伝えてきた『三つの心構えと二つの習慣』についても、しっかりと受け止めてくれている生徒も多く感心することがあります。しかし一朝一夕でこのような生徒が育つわけではありません。日頃から素晴らしい保護者と暖かい地域に支えられているからだと思います。このことに心から感謝しつつ今年もよりよい学校経営を行って参りたいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。

## 私たちには助け合いや相手を思いやる気持ちが必要です

生徒の皆さんへ

二学期の終業式では年末年始の過ごし方についてお話ししたのですが覚えているでしょうか。世界中どこの国に行っても、それぞれの宗教や文化に沿いながら年末年始を祝う習慣があります。新しい年といつてもそれはあくまでもカレンダーの上でのことであり、何か環境とか状況が変わるものなどはありません。あえて言うなら気の持ちようが変わるだけなのですが、実はこれがとても大切なのだというお話をしました。私たちは生きていく上で、辛いことや悲しいことから逃れることは出来ません。また私たちにはそれぞれに自分のことや家族のことについての悩みや課題があり、それを背負って生きています。悩みのない人なんているはずがないのです。けれどもいろいろな悩みや問題を引きずったままでいたのでは、やがて耐えきれなくなって心が折れてしまいます。そうならないようにするためにには、嫌なことは忘れたり気持ちを切り替えたりしていく必要があるのです。つまり年末年始というのは気持ちを切り替えるためにとてもよい機会なわけです。ですから年末年始こそ家族と過ごす時間を大切にし、新たな気持ちで新学期にまたお会いしましょうというお話をしたのでした。しかしながら北陸地方の石川県では元日早々から大きな地震が起り、そこに住まわれている人たちのそのような営みを無情にも打ち砕くようなことになってしまいました。その人たちの気持ちを考えるとみなさんもいたたまれない気持ちになってしまふのではないかでしょうか。日本というのは美しい自然に囲まれていますが、一方においてはこのように自然災害が多い国といえます。しかし私たちはこれからもこの国土で生きていかねばなりません。そのためにはこんなときこそ助け合わなければならぬのです。今の私たちにすぐ出来ることは少ないかもしれません、互いを思いやる気持ちだけは大切にしたいものだとは思いませんか。

## 叱られたり褒められたりするだけでやる気が出るものではない（前号からの続きです）

たしかに世の中には理不尽に思うようなことがたくさんあるので、ある程度は叱られることを我慢する必要があるのでしょうが、上手に叱ればやる気が出るのかというとそうではないようです。X世代とZ世代の大きな違いはそのときの世相にも関係していると思うのです。X世代と呼ばれる1960～1980年生まれである私たちが過ごしてきた社会では、経済規模が順調に拡大していて、給料も毎年ベースアップするのが当たり前のように考えられていました。住宅を購入する際に、借り入れから5年後に支払額が大幅に増えるステップ返済が流行ったのも、給料は毎年増えるものというのが前提になっていたからです。次から次へと新しい商品やサービスも現れ、未来は更に便利で豊かになっていくものという期待感がそこにはありました。そのような中にあったのでX世代の私たちは、自らのやる気次第で望む未来を手に入れようとする希望を持ちやすい環境にあったのだと思います。しかし、Z世代と呼ばれる若者が育ってきた今の社会では常に経済が低迷していて、給料を増やすためには転職以外に方法は無く、嫌なら辞めるというのが当たり前になってきています。未来への期待感が持てない社会なわけなのですから、そもそもやる気が生まれにくい環境なのです。なのでどんなにやる気が出るような叱り方や褒め方を考えたとしても、親ガチャのように自らの運命を握るのは自分のやる気ではなく、生まれてきた環境だと思っている若者にとって効果が無いのは当然のことといえます。むしろゲームの攻略法のように手っ取り早くうまくやる方法やスキルを教えた方がやる気を出してくれるのかもしれません。最近では私自身の考え方が古いのではないか、もっと柔軟な考え方へ変えて行かねばならないのではないかと考えるような毎日です。

## ○ 1月の主な行事予定 ○

9日（火）3学期始業式

10日（水）給食開始

自転車点検

17日（水）・18日（木）県立特別支援学校入学選考

19日（金）書き初め展の審査会（体育館）

本校体育館が市内展の会場です

20日（土）書き初め展（1日目）

21日（日）書き初め展（2日目）

22日（月）3年生私立高校受験集中日

24日（水）1・2年生実力テスト

27日（土）学校公開日（弁当持参）

午前：PTA企画の体験授業

午後：大道芸鑑賞会

（飯能市子ども議会を通じて開催決定）

29日（月）振替休業日

30日（火）1・2年生教育相談（2/7まで）